

図書館員が選ぶ この一冊

44

『かがみの孤城』ポプラ社
辻村 深月／著

学校に行けなくなってしまう中学1年生のころは、ある日自分の部屋の鏡が光り輝くのを見た。それと同時に吸い込まれた鏡の中では狼面の少女と、同年代の6人の子どもが待っていた。城の奥にある「願いの部屋」の鍵を見つけた人は願いをなんでも1つ叶えることができると聞いて、7人は鍵探しを始める。



現実世界と鏡の中の世界を行き来しながら物語は進む。互いに抱える複雑な事情を知るうちに、少しずつ友情を深め、ころころの気持ちも変化していく。思春期の不安定さや繊細な心の機微を丁寧に描きつつ、物語の終わりには全ての疑問が解消され、パズルのピースがそろうような爽快感がある。